

災害列島における難を避ける暮らし方

香川大学特任教授 長谷川修一

1. 大災害は連鎖して被災者を襲う

2024年元旦に発生した能登半島地震の被災地が、再び豪雨災害に見舞われました。二重に被災された方々にかかる言葉が見つかりません。1日でも早い復旧と復興を願うばかりです。

台風と地震が相前後して、襲った事例は決して少なくありません。1945年8月に原爆が投下された広島は、9月に枕崎台風による豪雨災害の翌年の12月に昭和南海地震に見舞われました。幕末には、1854年12月に安政東南海地震と安政南海地震が発生し、1855年11月に安政江戸地震によって壊滅的な被害を受けた江戸を襲ったのが1856年9月の台風による安政大風水害です。更にさかのぼると、1703年の元禄地震、1707年10月の宝永地震（歴史上最大クラスの南海トラフ地震）、12月の富士山宝永噴火と南海トラフ地震には大災害が連鎖して発生しています。

次の南海トラフ地震の前後に、スーパー台風襲われ、火山が噴火することは想定外ではありません。災害列島において被災を最小限に抑える暮らし方について考えてみましょう。

2. 標高3mより高い土地で暮らす

標高3m未満の土地は縄文時代には海だったところでした。その海を埋め立てたのは、川の洪水による土砂です。つまり、3mより低い土地は洪水によって新たに造成された土地なので、今でも洪水浸水想定区域です。また、標高3m未満の低平地は、高潮浸水想定区域と南海トラフ地震による津波浸水想定区域と重なります。浸水深は、かつての干潟を堤で取り囲んだ干拓地（例えば木太町北部）が大きく、より海側にあった塩田跡を埋め立てた土地は、盛土のため浸水被害が軽減されます。

更に、沿岸の低平地は、軟弱な砂層が堆積しているため、地震動が増幅しやすく、液状化が発生しやすい地盤です。南海トラフ地震では、仮に震度5強と想定より小さな揺れでも、地震動の継続時間が1分以上続くので、甚大な液状化被害が発生します。砂地の干潟跡に開発された塩田は、昭和南海地震によって甚大な被害を受けました。液状化被害は干拓地より海側の埋立地の方が大きくなると予想されます。

以上をまとめると、家を建てるなら標高3mより高い、昔から陸だった土地です。

3. 周囲より低い土地を避ける

3mより高い土地でも、周囲より低い土地は浸水しやすく、特に川岸や昔に川が流れた旧河道は洪水に要注意です。最大規模の降雨による洪水浸水想定区図を見ると、香東川は御坊川に、綾川は東大東川に、土器川は金倉川大東川に流れます。これは、大洪水の時には、かつての旧河道が復活することを示しています。

なお、洪水ハザードマップでは、浸水想定区域外であっても、浸水する場合があります。最近香川県が中小河川の浸水想定区域図を公表したしたので、是非ご確認ください。またハザードマップが作成されていない小さな川や谷では、ため池ハザードマップが参考になります。水は低い場所へ流れるので、周囲より低い土地は浸水しやすいのです。

4. 山では谷の出口を避ける

山地斜面は、土砂災害の跡地です。山地の急斜面は土砂が崩れ残った跡で、崩れた土砂は山麓に緩傾斜地を造ります。どちらも土砂災害の跡地ですが、人が暮らすことができるのは、崩れた土砂が堆積した緩斜面です。山地で最も土砂災害を受けやすい場所は、谷の出口です。谷は土石流が繰り返し流れてできたため、谷の出口は土石流が繰り返し襲う場所なのです。しかし、谷の出口には集落が多いのも事実です。これは、昔は溪流から水を引いていたので、谷が水の便の良い所だったからです。しかし、100年に一度くらいの頻度で土石流が発生するで、3世代過ぎると過去の被害の教訓が忘れ去られてしまうのです。

5. 究極の避難はより安全な場所への引っ越し

住む場所によっては、周辺より大きな被害を何度も受ける場合があります。被害を軽減するには、被害の大きな場所から、被害を受けないもしくは被害が小さな場所への引っ越しも一案です。子供や孫のためにも災害列島における難を避ける暮らし方を考えてみませんか。

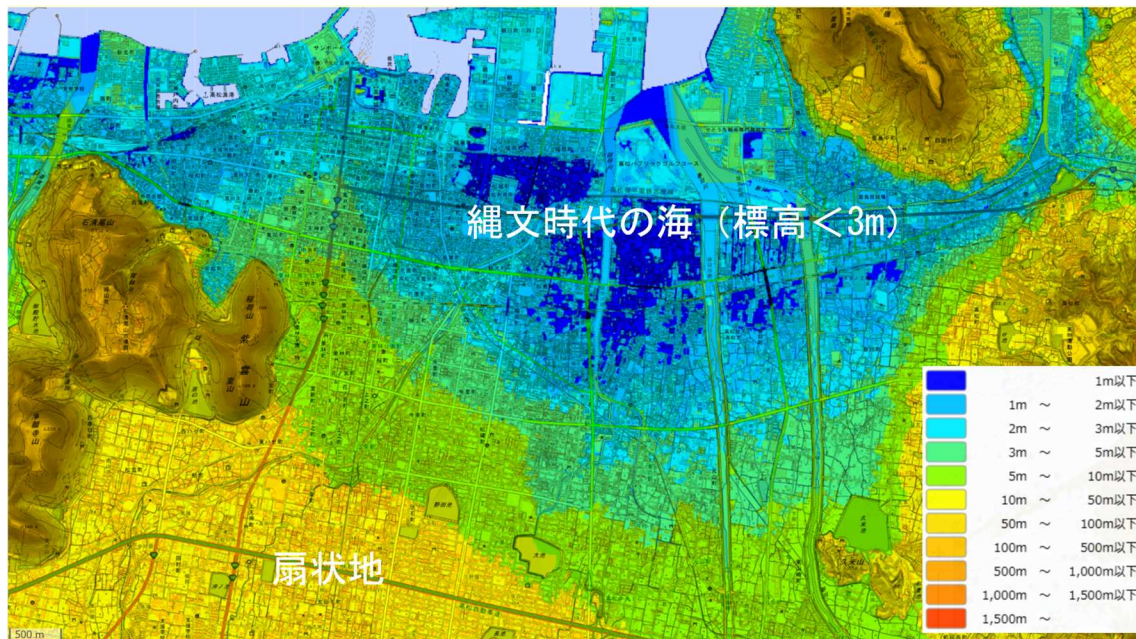


図1 高松市沿岸部の標高図

事務局だより

令和7年 2月

令和7年1月になって、防災に関する活動が目白押しとなりました。

その概要を紹介します。

- ◇1月8日(水) 東京において内閣府主催による個別避難計画推進全国協議会が開催され、全国自治会連合会が構成団体となって関係団体の間で知見の共有を図ることとして、今後定期的な開催を図る等、意見交換を行った。
- ◇1月18日(土) 丸亀市全コミュニティ組織(17校区)による防災訓練の実施、前日からの準備作業、当日訓練終了後の資機材の撤収作業、もちろん訓練4種目の指導者として対応しました。
- ◇1月20日(月) 高松市男女共同参画センター主催による「防災講座」の講師を努めました。
テーマ：自分や家族が生きのびるために、命を守る備えと避難行動
- ◇1月23日(木) 視察の受け入れとして、丹波篠山市自治会長会 約20名と同市役所の地域振興課長へ川西地区の取り組みを約90分説明した。
- ◇1月24日(金) 地元丸亀市立城辰小学校6年生防災訓練を実施、特に力を入れた取り組みとして、避難所配置図を示して6年生児童の発想によって、設営訓練、その後発表も行った。
- ◇1月27日(月) 高松サポートにて「防災対策に関する南海トラフ地震調査研究プロジェクト」の成果報告会へかがわ自主ぼうから40名参加した。
- ◇1月30日(木) 丸亀市立南中学校1年生7クラス(230名)防災訓練を7種目のカリキュラムで実施、落ち着きの無い生徒が目につき現場で防災訓練の大切さをしっかりと指導した。
- ◇1月31日(金) 丸亀市自主防災会等連絡協議会主催による先進地防災研修として兵庫県加古川市、マンション自主防災会グリーンシティを訪問、カリスマリーダーの大西氏より2時間40分にわたって21年間の取組みを拝聴させて頂いた。

編集後記

少し時期を失しましたが念頭のごあいさつをさせていただきました。原稿はお忙しい中(海外出張も重なり)香川大学名誉教授の長谷川先生からいただきました。誠にありがとうございます。